

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 5月 21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690200219号
法人名	境福祉法人伸志会
事業所名	グループホーム永利
所在地	鹿児島県薩摩川内市永利町2533番地3 (電話) 0996-20-8139
自己評価作成日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの個性に応じた外出デイ、買い物、レクリエーション等個々に合わせて取り組んでいる。H24年5月に隣接して病院がオープンし、また週に1回は医師が来てくださり、利用者が安心して生活出来る様に連携が図られている。今年度は「ひとつ上のケアを目指して」をスローガンのもと、基本に戻り、利用者の尊厳を明確にし、ケアの質にこだわってきました。グループホームの他に、病院、特養、デイサービスセンター、デイケア等幅広く展開しており福祉面、医療面のバックアップが常に充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市郊外の自然環境に恵まれた地に建てられているグループホームである。広大な敷地には介護老人福祉施設、デイサービスが併設され、関連の医療機関も隣接するなど法人は地域の医療福祉拠点として大きな役割を担っている。活発な利用者が多く、さまざまな取り組みがなされているが、特に外出支援に力を入れており、日常的な散歩や日用品購入のための買い物、テラスでのお茶や食事などできるだけホーム内に閉じこもらない生活を支援し、時には、天候に合わせて近隣の公園に手作り弁当持参で出かけたり、地域行事見学、季節の花見、初詣、鶴見学、外食、ファミリーレストランでのお茶会、ふるさとドライブなど普段行けないような場所でも可能な限り外出の機会を瀬回に作り、楽しみを持ちながら生活できるように支援している。

食事は法人の管理栄養士の指導のもと利用者の希望も取り入れながら献立が作成されており家庭的で栄養バランスも良く利用者の健康に結びついている。また、毎月2回「クッキングデイ」と称して献立から買い物、調理に至るまで利用者主体となってい「食」の楽しみと自立に向けた支援に取り組んでいる。

ホーム内が明るく活気があり、職員は理念に掲げている「人間を重んじた生活の援助」を意識しながら自立を妨げない利用者本位の介護を目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一同で考えた理念を目標に日々努力している。理念を共有し実践につなげている。毎朝、理念の復唱を行い理解を深めている。	法人の理念を基本としているが、グループホーム独自に更に具体化した文言の理念を職員全員で話し合って作成している。理念は玄関・リビングに掲示してネームの裏にも明記していつでも確認できるようにするとともに、毎朝唱和して意識付けを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回ボランティアの受け入れをしている。敬老会は地域の方々にも参加していただいている。地域の文化祭、夏祭り、運動会へ参加し、保育園との交流も図っている。	法人の事業所合同の行事に参加して地域住民との交流の機会に繋げている。地区小学校の運動会では見学席が確保されており、今年度は地域の文化祭にも作品を出品する予定で、積極的に地域交流を図っている。また、保育園児との定期的な交流も行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進委員会、家族会、毎月の家族へのお便りを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。地域の方々を対象に認知症サポーター養成講座に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや取り組んでいること、計画していることを報告、相談しサービスの向上、ケアに活かす取り組みをしている。	地域住民代表・市役所担当職員・家族代表等の参加で2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームからは入居者状況、行事報告及び今後の予定、ヒヤリハット事例及び事故報告等を行い、参加者それぞれの立場からの意見や助言などをもらいながら、サービス向上に有意義な会議となっている。	

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族からの相談等解釈の困難事例などには、市役所に相談を行的確に答えられるように連携を図っている。また、運営推進会議で市の担当者とは意見を交換している。	介護保険申請時や困難事例など生じた際は相談等で連携を図っている。また、運営推進会議に市担当者の参加が毎回あり、ホームの実情や取り組み状況を伝えながら、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、拘束について勉強会を実施、禁止対象となる具体的な行為を理解しケアに取り組んで、全職員の共通認識を図っている。「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」を貼り出している。施錠せず見守りを行い、玄関と非常口にはセンサーがあり対応出来ている。	法人全体で年2回、ホーム内で2ヶ月に1回の頻度で基本全員参加の勉強会を行っている。日常のケアの中での職員からの意見や気づきなどを活かして身体拘束ゼロ対策マニュアルを作成し、禁止の対象となる具体的な行為について全員が正しく理解できるように徹底している。日中は施錠などせずに玄関のセンサーの活用と職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会を開催し、全職員が学べるように取り組んでいる。虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会で権利擁護に関する事を学んでおり、必要に応じ活用できるように取り組んでいる。自立支援についてはプラン作成により検討し、職員はプランに沿って支援している。		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み退去を含めた施設の対応可能な範囲について説明を行っている。家族からもケアの希望を頂き、施設での生活が良いものになるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から要望があった場合には、利用者の状態を考慮しながら対応している。電話や面会時に話す機会を設けて要望を取り入れていけるようにしている。家族全員に無記名でアンケート調査を行い、職員間で共有を行い反映している。	年2回無記名のアンケート調査の実施と面会時や電話連絡時に意見・要望を聞き出すように努め、面会簿も意見記入欄を設け、家族が要望などを気軽に表してもらえるような機会を設けている。第三者委員も設置しており、玄関に掲示している。また、年1回食事会を兼ねての家族会を行っており、職員とのコミュニケーションを図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会、ケア会議を実施して、その中で職員の提案や意見を聞く機会を設けて反映させている。職員間で意見を言いやすい雰囲気作りをして、アンケートで要望を自由に書いてもらい反映している。	毎朝夕の申し送り時や毎月基本全員参加で行っている職員会とケア会議で職員の意見・提案を話し合う機会としている。出された意見提案は可能な限りサービス向上や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れやりがいにつなげるよう配慮している。代表者が1対1で話が出来る機会を設けている。		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会を積極的に促し、費用については、最大法人にて支出するようにしている。医師による勉強会を実施し、質問を行い職員の質の向上を計っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のケアマネ会を定期的に行ない意見交換や質の向上に向けた勉強会を行なっている。グループホーム連絡協議会等に参加して、同業者との交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報をもとに、話題提供しながら積極的に関わりをもつようにしている。不安、要望等を十分に聞かせて頂き、安心して頂けるような、サービスの提供を行なうことで、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞かせて頂き、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心していただけるような、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プラン作成時には本人及び家族の要望を取り入れ、優先順位を決めてサービス提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬物や調理場面で「むかしとったきねずか」を活かせるよう支援している。		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で本人を支えるのではなく、家族にも出来るだけ協力をして頂、共に本人を支える関係を築くように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと散策ドライブや馴染みの美容室、地域に出かけるようにしている。よく利用されていたスーパー等に出かけ、馴染みの人と顔を合わせるような場所には、出来るだけ出向いていける支援を行なっている。	馴染みの店での日用品購入のための買い物や本人希望による墓参り、出身地の地域行事参加などで馴染みの人や場と関係が途切れないように可能な限り支援している。また、月2回「ふるさとドライブ」として利用者の自宅近くや馴染みの地域に出かける取り組みも行っている。入居前からの行きつけの理美容院を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支える関係が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院に移られた方にはこれまでの生活状況、支援の内容注意が必要な点の情報提供を行ない、本人の生活の継続性を損なわないように努めている。家族からの相談を受ける等関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ目線とならぬよう普段から「気付き」を大切にし情報の共有とスピードを意識している。	一方的な介護とならないように職員に周知徹底しており、日常の関わりの中でほとんどの利用者とは会話で意思疎通を図り、困難な利用者については表情、言動、家族や関係者からの情報などから思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行い、家族やケアマネージャーから情報収集を行なうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分な情報収集の上で、計画に反映させて、日々の暮らしの中から、有する能力等の把握に努めている。見極める努力を日々実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日々関わりの中で、思いを反映させるようにしている。モニタリングや解決すべき課題について、ケア会議や職員会議にて共有をしている。	本人・家族の要望を聞き、必要な関係者の意見を基に生活支援・健康管理に重点を置いた介護計画を作成している。また、毎月のケア会議では利用者全員について細かな話し合いがなされ、職員間の情報の共有が図られて見直しに反映させている。利用者の状態に変化が見られた際は随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の言葉、エピソード等も記入して、変更点、注意点はノートに記入し、申し送りですべての職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の通院は施設職員が付き添っている。また本人の通院等必要な支援は柔軟な対応し、個々の不安を減らすように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きたい場所や、したいものについて把握に努め、その行き先等への事前根回しなど個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族と相談を行いながら、希望する医療機関へ受診を受けられるように支援している。歯科医師の定期的な往診もある。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっており、職員が同行して定期的に受診している。協力医療機関とは24時間連携が図られており、緊急時など適切な対応がなされている。	

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師はいないが、医師が週に1回来てくださり、適切な受診やアドバイスを貰っている。常に利用者の状態の変化を見逃す事のないように、隣接した特養看護師もアドバイスを下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療が受けられるように、主治医とは連携を密に常に連絡が取れるようにしている。利用者の入院時には、定期的に面会を行い、入院期間や今後の対応等家族、医療機関と話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と緊急時の対応や今後の方針を話し合っている。	入居時に家族の希望・思いを聞いており、ホームの方針についても口頭で説明している。入居後は身体状況に応じて主治医と家族をまじえた話し合いにより、方向性に応じてホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	ホームでできる支援について口頭での説明にとどまっており、今後は家族がより詳しく認識できるようにホームでできる支援について文書化した指針の作成が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が出来るように、講習や勉強会、施設内研修等を通して練習を行なっている。緊急時のマニュアルを作成しており職員に定期的に徹底を行なっている。		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接した特養と合同で、定期的な非難訓練を消防署の協力を得て実施している。夜間にも避難訓練を実施している。	年3回隣接する事業所と合同で避難訓練を行っている。特に夜間の訓練については、実際の夜間帯に行ったことで利用者の行動がわかり、職員間の意識向上につながっている。地域との協力体制については地域消防分団との連携が図られている。また、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	間違いや失敗があっても他者に気づかれることのないよう声かけや対応を行なっている。	理念にも「人間の尊重を重んじた生活援助」を掲げており、人格を尊重した対応に努めている。また、法人全体でもプライバシーに関する勉強会を定期的に行って、人権の尊重や接遇など職員の資質向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人が答えを出せるような選択肢を増やすように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る方には自分のペースで一日を過ごせるように努めている。その人らしい生活が出来る様な支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう、その人の力に応じ支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力に応じ出来ることをして頂き、職員と一緒に準備や片付けを行なっている。月2回のクッキングデイは食べたい物を聞きながら献立作成、買い物を一緒に行なっている。	日常の献立は法人の管理栄養士の指導の下に作成されており、家庭的で栄養バランスのいい献立となっている。他にも月2回「クッキングデイ」と称して献立から買い物、調理まで利用者主体で行い「食」の楽しみと自立に向けた取り組みを行っている。気候のいい時期は弁当持参で近隣の公園に出かけたり、ホームのテラスでお茶や食事をすることもある。また、3時のおやつにファミリーレストランでのお茶会にも出かけることもある。	

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回管理栄養士と話し合う機会があり、相談、アドバイスを貰っている。食事量や水分が少ない時は、申し送りで伝達して情報の共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの支援を毎食後行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ排泄はトイレで行なえるよう支援し、一人ひとりの力や排泄パターンに応じ声かけ案内を行なっている。	排せつチェック表を活用して個々の排せつパターンを把握し、トイレでの排せつを支援している。自立している利用者も多く、職員のさりげない声かけ誘導で維持できるように支援している。また、入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、運動や水分補給に努める。本人の体調で内服でコントロールする場合がある。		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	常に利用者に話しかけ安心して入浴していただけるよう支援している。好みの時間に入れるように配慮している。	希望に応じて毎日入浴している利用者もあり、個々の希望や生活習慣に応じて回数や時間帯は柔軟に支援している。また、ゆず湯や菖蒲湯などで季節を楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共同スペースで自由に休息を取って頂き、夜間は居室の温度管理、寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてはほぼ理解している。個々の病状を理解し、病状の変化がある時には、主治医に報告し対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びがある生活が送れるように、その人の力に応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に添った気分転換等にも対応できるよう支援している。		
		○日常的な外出支援	できる限り、本人の希望に添っ	日常的にはホーム周辺の散歩や日用	

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	た外出支援になるよう、時には家族の協力をお願いすることもある。周辺の散歩も定期的に行かない、下肢筋力低下の方は、車椅子を使用し身体に負担がかからないように支援している。	品の買い物、ドライブなどに出かけて外出の機会を作っている。又、天候をみて季節の花見や鶴見学、地域行事見学、外食、ふるさとドライブなど普段行けないような場所へも出かけられるように外出支援を行っている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は出来る方は、手元に持ち買い物は自分で支払っていただく。難しい方は家族より預かり施設で管理して定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話など希望があれば自由に話しして頂いている。年賀状や暑中見舞いを家族や友人にだしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ利用者の不快感の減少に心がけ、季節感や生活感を感じていただけるよう工夫している。	リビングから直接出入りできるテラスがあり、日光浴やお茶の時間などにも活用されて明るく開放的な共用空間である。食事のダイニングとテレビ・ソファのあるくつろぎの空間に分かれており、メリハリのある生活を送ることができる。台所もオープンで食事の準備の光景やにおいなどは五感を刺激してくれる。	
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり			

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で居室の利用もされています。過ごしやすい環境となるように支援している		

鹿児島県 グループホーム永利 ユニット1

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されていた家具、茶ぶ台等持ち込まれている。使い慣れた物を使って頂いている。	使い慣れたタンスや趣味の観葉植物、家族の写真やお気に入りの飾り物、テレビなどが持ち込まれ、それぞれに居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のないように環境面に関する配慮と工夫をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない